

道央ひとワイド

路上生活者の実態調査を機に1999年、大学教員と学生が中心となって発足した札幌の支援団体「北海道の労働と福祉を考える会」。会員約50人の連絡調整を担う13代目事務局長、内山明さん

(20)「北大農学部2年」は「資金も人も限りはあるが、困ったとき、真っ先に頼ってもらえる存在になれば」と話す。

新潟市生まれ。中学時代からホームレス問題に関心を持ち、大学入学後に入会。数十人が建物の陰で寝泊まりする姿に「厳冬の屋外に、これだ

けの人が暮らすこと自体が衝撃でした」。年数回の炊き出しと、月2回の「夜回り」が主な活動。先輩会員と巡回

に出会い、生活保護申請に付き添った30代の男性が印象に残っていると、その後、配送業のアルバイトに就き正社員

を目指していると聞き、「あの時、声を掛けてよかった」と強く思った。経済的な理由で家を失った人から、人付き合い

頼ってもらえる存在に



を避けて路上を選んだ人まで事情はさまざま。支援制度の周知に伴い路上生活者数は減少傾向にあるものの、「きちんと目を向け、最大のサポートを」と訴える。同会は一般、学生のメンバーを募集している。問い合わせは内山さん ☎090・7515・8393へ。

ランタン祭り
多数の参加喜ぶ

道内コンテストで優勝し上映が決まった。放送業界を目指しており「夢への第一歩になった」。27歳



JR滝川駅前などで先月開かれた第10回紙袋ランタンフェスティバルたきかわ。実行委員長を務めた山崎修さん(47)は「市民参加型イベントとして定着しつつある」と成功を喜ぶ。

手作りひな人形
最後の展示好評



小樽市内の主婦でつくる手芸サークル「紀の会」が2月28日〜3月1日に同市内の喫茶店で最後のつるし

雛作品展を開いた。代表の本間千恵子さん(64)は「見に来てくれた人みんなに喜んでもらえた」と話す。

天井からつるした赤い糸に布製のひな人形を飾り、来場者を魅了。「作品の幅を広げたい」と、5年目を迎えた今回で終了する。

ひな人形は卒業し、今後は別の作品で展示会を企画する。「まずは自分たちが

仲間と制作CM
上映「うれしい」



千歳高校の3年生4人が制作したコマーシャル(C

楽しむこと」と、気負いなM)作品が、17日から江別市など道内のワナー系列4映画館で上映される。リーダーの室谷太輝君(18)は「自分たちの作品が世の中に出ていくなんて、うれしい」と照れくさそう。

映画館で携帯電話の電源を切るよう訴える作品で、ブロック玩具の人形を動かしながら撮影、これを連続映写したアニメーション。

紙袋に描いた文字や絵が、中のおそろいのあかりで浮かび上がるランタン。昨年の2倍、過去最多の1万個が幼稚園児からお年寄りまで市民の手で作られた。

来年は後輩に委員長を託すが「まずは自分たちが楽しめるイベントにするのが重要。そして地域の結束が高まってほしい」。

滝川

道央ひとワイド